

令和4年度群馬県歯科医師会学術講演会のご案内  
『人生100年時代に求められる歯科医療人とは』  
(令和4年度8020県民運動推進特別事業)

記

日 時 : 令和5年3月19日(日) 午前10時00分～13時00分

場 所 : 群馬県歯科医師会館 5階 大ホール

講演演題①:『超高齢社会の歯科医学教育を支える解剖学 ～摂食・嚥下機能を知る～』

講 師①: 東京歯科大学 理事長 井出 吉信先生

講演演題②:『高齢者歯科医療に対応できる歯科医師育成のための卒前・卒後教育』

講 師②: 東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長

口腔病態外科学講座教授 片倉 朗先生

【申込フォーム】 ※締め切りは3月13日(月)、17時まで

URL: <https://forms.gle/kfT6rJwX3KEj67vD8>

QRコード:



※日本歯科衛生士会研修取得単位は、申請中です。

## 演題①『超高齢社会の歯科医学教育を支える解剖学 ～摂食・嚥下機能を知る～』 東京歯科大学 理事長 井出 吉信 先生

### 【講師略歴】

学校法人東京歯科大学 理事長  
東京歯科大学解剖学講座教授  
歯学博士

埼玉県出身  
1947年7月25日生まれ

1972年 東京歯科大学卒業  
1972年 第51回歯科医師国家試験合格

1976年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了  
(解剖学専攻)学位受領(歯学博士)

1976年 東京歯科大学解剖学講座助手

1977年 東京歯科大学解剖学講座講師

1980年 東京歯科大学解剖学講座助教授

1984年 東京歯科大学解剖学講座教授

2007年 東京歯科大学副学長

2011年7月 東京歯科大学学長(～2022年5月)

2017年6月 学校法人東京歯科大学理事長

【抄録】高齢化が進む今日、誤嚥性肺炎に起因する死亡率が上がっています。その大きな要因となるのが、加齢による口腔機能の低下が引き起こす摂食・嚥下障害です。皆様ご存知のように人生100年時代に入り、いつまでも食事を美味しく口から摂取できることが、生活の質向上の重要なカギであることは言うまでもありません。食事の口腔摂取が十分でない場合、栄養不足から引き起こされる全身疾患や、入院患者の場合は入院が長引き、在宅での看護が必要になってしまうケースもあります。近年の歯科医学教育では口腔機能低下症や嚥下障害に関して、以前にも増して重点的にカリキュラムに加えております。また同時に、在宅医療に於ける歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師、管理栄養士、介護士などの多職種連携が益々重要になっています。その為、他の医療系大学間とも包括的に教育協定を結ぶ様になってきています。今日は、摂食・嚥下障害を理解する為の基礎となる解剖学の立場から、口腔・咽頭・喉頭の構造および摂食・嚥下に関与する筋と支配神経の話をお話させていただきます。

## 演題②『高齢者歯科医療に対応できる歯科医師育成のための卒前・卒後教育』 東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長 口腔病態外科学講座教授 片倉 朗 先生

### 【講師略歴】

1985年 東京歯科大学卒業  
1991年 東京歯科大学大学院修了(歯学博士)  
2003年～2004年 UCLA 歯学部口腔外科・医学部頭  
頸部外科に留学  
2008年 東京歯科大学 口腔外科学講座准教授  
2011年 東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔  
外科学講座 教授  
東京歯科大学 口腔がんセンター長  
2015年 東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授  
2019年 東京歯科大学水道橋病院 病院長  
2022年 学校法人東京歯科大学 常務理事  
東京歯科大学 副学長 / 千葉歯科医療センター長

### 【所属学会等】

(公社) 日本口腔外科学会指導医、  
(社) 日本老年歯科医学会指導医、  
(一社) 日本口腔診断学会指導医、  
(公社) 日本顎顔面インプラント学会指導医、  
(一社) 日本有病者歯科医療学会指導医、  
(一社) 日本口腔腫瘍学会暫定指導医、  
(一社) 日本顎関節学会暫定指導医、  
(一社) 日本小児口腔外科学会指導医、  
(一社) 日本口腔内科学会指導医、  
(NPO) 日本口腔科学会指導医、  
(一社) 日本感染症学会 インフェクション コントロール  
ドクター など

【抄録】平成30年の厚生労働省の国民生活基礎調査によれば、歯科への通院率は65歳以降に急激に増加し、80歳代では「嘔めない」という有訴率がさらに増加しています。しかし、同じ集団の通院率は80歳以降で低下しています。つまり、加齢により口腔機能の低下を来している患者が増加している一方で、それらの患者は様々な理由で歯科診療所の受診が困難になっていることがうかがえる調査結果です。おそらく、健康上の問題や環境的な要因で通院が困難になっているのでしょう。こうなると口腔機能低下が負のスパイラルに陥ることは明らかです。今、歯科医師を目指して勉強している学生はまさに2040年に歯科医療の第一線を支える人材です。彼らにとって、様々な環境に置かれた全身的な問題点を有する患者に対して、口腔機能の維持を向上させることが、行うべき歯科医療の一つの柱になります。したがって、来る医療ニーズと社会環境で歯科医療を担う歯科医師となれるように歯学教育のモデル・コア・カリキュラムが生まれ、どの大学でも知識、技能、態度のいずれの面からもその教育が行われているところです。今回は超高齢社会に対応する歯科医師育成のため、歯学部でどのような教育が行われているかを本学の事例を紹介し、先生方が今後どのような知識やスキルを修得しておいた方が良いかをお話する予定です。